

Stage7

Jamie and the Chameleon

ジェイミーとカメレオン

作・キャロリン・スローン

絵・レズリー・ハリントン

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すといいでしょ。

表紙と裏表紙を見てみましょう。本のページをパラパラとめくって絵を見てください。お子さんにこんな質問をしてみましょう:

- ・カメレオンについてどんなことを知ってるかな。同じような動物が出てくる本を読んだことはある？
- ・この話はどんなことが書いてあると思う？

自分のスピードでこの話を読めばいいよと、お子さんにいってあげましょう。

<ひっかかることば>

ここにあるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

chameleon カメレオン

dragon ドラゴン

tongue 舌

interesting おもしろい

minutes 分

lumbered ドタドタ進んだ

cushions クッション

swiveled クルクル回した

[p. 1]

ジェイミーとカメレオン

作・キャロリン・スローン

絵・レズリー・ハリントン

[p. 2]

「これは小さい竜なの？」ジェイミーはおかあさんにたずねました。

ジェイミーのおかあさんは動物園で働いていました。おかあさんはトカゲやヘビの世話をしていました。ある日、おかあさんはジェイミーに見せるためにトカゲを家に持って帰りました。

[p. 3]

「いいえ、これは竜じゃないわ」、おかあさんは言いました。「カメレオンよ」

[p. 4]

ジェイミーは、かごのなかにすわっているカメレオンを、すこしのろまだなと思いました。そのとき急に、カメレオンが舌をだしました。まただしました。またまただしました。

[p. 5]

「すごい！」ジェイミーは言いました。「あの舌を見た？ 舌をだして、ただだして、ただだして、また……、すごく長くて……」

「体と同じぐらいの長さがあるって、だから自分が食べる虫をつかまえられるのよ」おかあさんは言いました。

[p. 6]

おかあさんはカメレオンをカーペットの上に置きました。カメレオンはゆっくりとあちこち動きまわりました。

[p. 7]

「おかあさん」しばらくしてジェイミーは言いました。「カメレオンが赤くなっていくよ！ 大丈夫かな？ 見て！ カーペットと同じくらい赤くなったよ」

「ああ！」おかあさんは言いました。「カメレオンの本当におもしろいところを教えるのを忘れてたわ。カメレオンは色を変えられるの！」

[p. 8]

おかあさんはカメレオンをかごに戻しました。

「カメレオンからちゃんと見てね。エサ箱をきれいにして水を持ってくるから」

ジェイミーはカメレオンがまた灰色にもどるのを見守りました。ジェイミーはさらにもうすこし見守っていましたが、なにも起こりません。

[p. 9]

ジェイミーは思いました。「カメレオンをまた外にだしてあげて、こんどは青くなれるかどうか見てみよう！」ジェイミーはかごの扉をあけました。カメレオンはテーブルのうえをのっそりと進みました。

[p. 10]

カメレオンはくだものが入ったボウルに登りました。カメレオンはすぐに茶色の点がある黄色に変わりました。

「きみって天才だよ！」ジェイミーは笑いました。「さあ、かごに戻る時間だよ」

[p. 11]

でもカメレオンはかごに戻りません。代わりにソファに向かってはっていきました。

「どこにいるの？」ジェイミーは心配になりました。「クッションに隠れないでよ」

[p. 12]

「ああ、そこにいたんだ！」

[p. 13]

ジェイミーがカメレオンをつまみあげる前に、カメレオンは植物の中に移動していました。「どこにいるの？ 隠れないで、お願い！」ジェイミーはよびかけました。でもジェイミーはカメレオンを見失ってしまいました。

[p. 14]

「ああ、そこにいたんだ！」

[p. 15]

<ジャングルで迷って>

カメレオンは次に本棚に向かいました。

「だめだよ！ 戻っておいで！ この本のなかに入ったら見つけれないよ！」ジェイミーは泣き言を言いました。

[p. 16]

「ああ、そこにいたんだ！」

それからカメレオンはおかあさんのパッチワークのキルトを見ました。カメレオンの目が旋回しました。カメレオンははいはじめました。

「おかあさんのパッチワークのキルトはだめだよ！」ジェイミーは不満声で言いました。「絶対にあそこじゃ見つけれないんだから！」

[p. 17]

ジェイミーはおっかなくなりしました。カメレオンは交通信号よりも速く色を変えていきます。赤、黄色、緑。赤、黄色、青。それからピンク、それからオレンジ……

[p. 18]

「やめて！ やめてよ！」ジェイミーはさげびました。ジェイミーはカメレオンをもう見つけることはできませんでした。

おかあさんが走ってきました。

「おかあさん！ 助けて！」

[p. 19]

「ごめんなさい。カメレオンを外にだしちゃったの」ジェイミーが言いました。「カメレオンはパッチワークのキルトにまぎれこんで……、カメレオンはいろんな色でいっぱいになってると思うよ！」

「心配いらないわ」おかあさんはそう言って、あたりを見まわしました。「カメレオンは遠くに行けるはずないわ」

[p. 20]

「ほらそこにいた、かごの中よ」おかあさんはにっこり笑いました。ジェイミーはじっと見ました。カメレオンがいました。生気がなくて疲れているように見え、色は灰色でした。でもジェイミーにはちゃんとカメレオンが見えました！

[p. 21]

<は虫類館>

次の日、おかあさんとジェイミーはカメレオンを動物園にもどしに連れていきました。ジェイミーはカメレオンが寂しいんじゃないかと心配でした。

「心配いらないわ、ジェイミー」おかあさんが言いました。

[p. 22]

「カメレオンの育成室にお友だちが何匹いるか見てごらん下さい！」

ジェイミーは見ましたが、見えるのは茂みや植物や…… 待って！ 葉っぱのうえに身を隠しているのはカメレオンの赤ちゃんかな？ 植木鉢の上に乗ってるもっと大きなカメレオンかな？

[p. 23]

「カメレオンは目をこらして見なくちゃいけないね！」ジェイミーが言いました。ジェイミーはカメレオンの数をかぞえはじめました。ぜんぶで8匹かぞえました。

あなたは何匹見つけられますか。

[p. 24]

カメレオン

カメレオンは皮膚に特殊な色の細胞があります。なかには20秒で色を変えられるカメレオンもいます！

カメレオンがもっているもの：

ものをつかむしっぽ

たがいに独立して動く目

とても長い舌

カメレオンはさまざまな理由で色を変えます：

- ・カメレオンが熱すぎたり、寒すぎたりしたとき
- ・カメレオンが不機嫌なとき
- ・カメレオンがほかのなかにメッセージを送りたいとき。例えば「あっち行け、ぼくは眠いんだ！」など。
- ・カメレオンがこわがって、隠れたいと思ったとき

この本にのっているカメレオンが色を変えたのはどうしてだと思いますか。

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・ジェイミーのことは気に入った？ ジェイミーをどんな子だと思う？
- ・カメレオンがパッチワークのキルトにとっても興奮したのはどうしてだと思う？
- ・この本はおもしろかった？ それはどうして？

<ほかにすること>

お子さんが図書館の本やインターネットを利用して、カメレオンについてももっとたくさん知るようにおすすめしてください。

お子さんは、どこかで身を隠しているカメレオンの絵をかくのもいいでしょう。